



2019年8月14日

各位

セントケア・グループ 株式会社ミレニア

国立精神・神経医療研究センターのIROOP®研究 認知機能の縦断的变化に影響を与える因子を解明

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（NCNP、東京都小平市、理事長：水澤 英洋）は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の認知症研究開発事業の支援により運用する、認知症予防を目指したインターネット健常者登録システム IROOP®（Integrated Registry Of Orange Plan；アイロープ）に関する研究で、IROOP®に登録された日本人の高齢健常者の大規模データから、認知機能指数（MPI）の縦断的变化に影響を与えている因子について解明することに成功しました。株式会社ミレニア（本社：東京都中央区、代表取締役社長：長野雄太）は、NCNP との共同研究契約に基づき、プライマリ・アウトカム・メジャーである MPI（Memory Performance Index: 認知機能指数）を算出する簡易認知機能スケール「あたまの健康チェック（英名：MCI Screen）」の提供を担当致しました。

■ 研究の内容

本研究の結果から、睡眠に関する項目が認知機能指数（MPI）の低下に関連していることが示されました。近年の研究から睡眠の質・量がアミロイド沈着と関連していると言われており、一次予防として睡眠コントロール、睡眠習慣の確立が重要な課題となると考えられます。次に気分に関する項目、社会とのつながりについての項目が抽出されました。認知症は多因性病因のため 1 つのライフスタイルの要因に焦点をあてて予防するのではなく、マルチドメインでの予防が必要となってきます。本研究では睡眠時間、気分、社会とのつながりといった項目が抽出されたことから、これらへの介入が認知機能低下の予防としてキーとなると考えます。

- ・著者：Ogawa M, Maruo K, Sone D, Shimada H, Suzuki K, Watanabe H, Matsuda H, Mizusawa H
- ・論文名：Longitudinal analysis of risk factors for dementia based on Mild Cognitive Impairment Screen results and questionnaire responses from healthy Japanese individuals registered in an online database
- ・掲載誌：Alzheimer's & Dementia: Translational Research & Clinical Interventions 5(2019)347-353
<https://doi.org/10.1016/j.trci.2019.06.003>

■ 認知機能指数（MPI: Memory Performance Index）

若年層や健常～MCI 群における認知機能の客観的定量観察に適した簡易認知機能スケール「あたまの健康チェック（英名：MCI Screen）」により算出される認知機能の状態を表す 0-100 の値で示される指数。

経時的变化が観察でき定期的な状態観察や予防介入の効果測定にも適している。独自の人口統計評価アルゴリズムにより、検者の職能や主観評価能力に頼らず、安定した高精度な客観評価が可能。米 FDA 治験や国内 AMED 研究事業での採用をはじめ、全国の医療機関・健診センター、研究機関、地方自治体、企業・団体により広く採用される新しい領域の認知機能スケール。国際的に権威のあるジャーナルでも多数の成果掲載歴があり、国内外の著名な医師、研究者からの評価も高い。

<本件に関するお問い合わせ>

セントケア・グループ 株式会社ミレニア

東京都中央区日本橋箱崎町 17-1 TEL：03-5695-3028 / FAX:03-5695-3000

Mail: info@millennia-corporation.jp URL: www.millennia-corporation.jp